

Bridge Management System

(管理会計記録機能)

利用説明書

0. 必要なファイル

本モジュールを実行するために、事前に「費用情報」に関するファイルおよび「部材分布情報」に関するファイルを作成する必要があります。

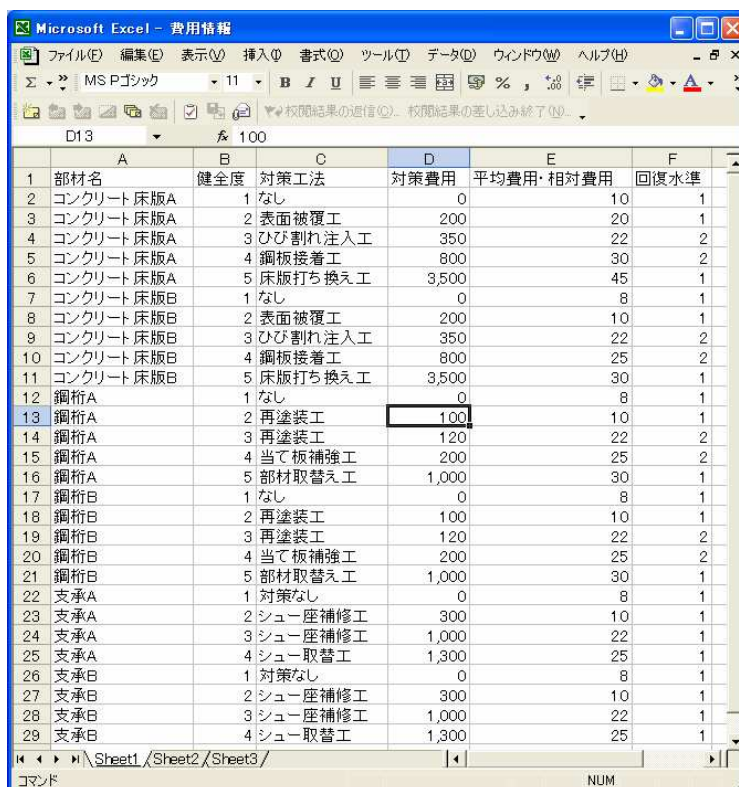
0.1 費用情報

平均費用法に基づく補修戦略とその費用情報を入力してください。

注意していただく点は、

- ・ それぞれの部材の健全度は1から順につけていく
 - ・ 健全度は大きいほど状態が悪化していることを示す。
 - ・ 回復水準を健全度の値で設定する。
 - ・ 健全度1の「平均費用・相対費用」には平均費用の値を入れる
 - ・ 各部材の最悪の健全度について、相対費用は通常算出されないのので、適当な値を代入する
- です。

サンプルは「費用情報.xls」で、6部材で構成される橋梁を対象としています。



	A	B	C	D	E	F
	部材名	健全度	対策工法	対策費用	平均費用・相対費用	回復水準
1	部材名	健全度	対策工法	対策費用	平均費用・相対費用	回復水準
2	コンクリート床版A	1	なし	0	10	1
3	コンクリート床版A	2	表面被覆工	200	20	1
4	コンクリート床版A	3	ひび割れ注入工	350	22	2
5	コンクリート床版A	4	鋼板接着工	800	30	2
6	コンクリート床版A	5	床版打ち換え工	3,500	45	1
7	コンクリート床版B	1	なし	0	8	1
8	コンクリート床版B	2	表面被覆工	200	10	1
9	コンクリート床版B	3	ひび割れ注入工	350	22	2
10	コンクリート床版B	4	鋼板接着工	800	25	2
11	コンクリート床版B	5	床版打ち換え工	3,500	30	1
12	鋼桁A	1	なし	0	8	1
13	鋼桁A	2	再塗装工	100	10	1
14	鋼桁A	3	再塗装工	120	22	2
15	鋼桁A	4	当て板補強工	200	25	2
16	鋼桁A	5	部材取替え工	1,000	30	1
17	鋼桁B	1	なし	0	8	1
18	鋼桁B	2	再塗装工	100	10	1
19	鋼桁B	3	再塗装工	120	22	2
20	鋼桁B	4	当て板補強工	200	25	2
21	鋼桁B	5	部材取替え工	1,000	30	1
22	支承A	1	対策なし	0	8	1
23	支承A	2	シュー座補修工	300	10	1
24	支承A	3	シュー座補修工	1,000	22	1
25	支承A	4	シュー取替工	1,300	25	1
26	支承B	1	対策なし	0	8	1
27	支承B	2	シュー座補修工	300	10	1
28	支承B	3	シュー座補修工	1,000	22	1
29	支承B	4	シュー取替工	1,300	25	1

0.2 部材分布情報

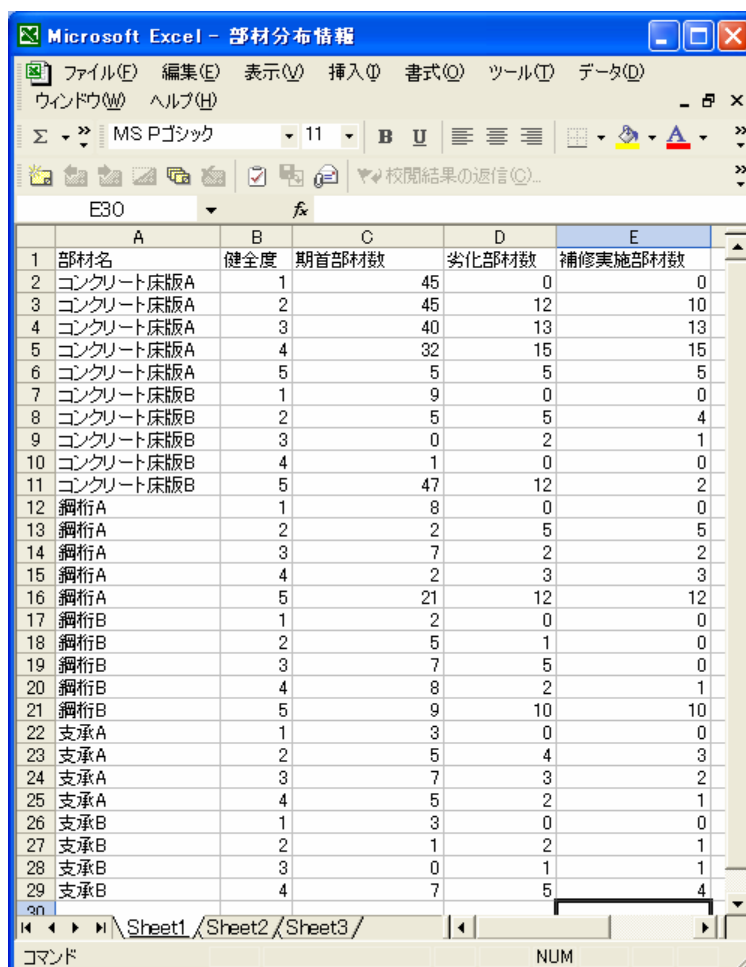
選択可能な補修戦略とその費用データ、工法が施工された際の回復水準を設定してください。

入力に際して注意していただく点は、

- ・ 「費用情報」と同じ部材と健全度の情報を準備する。
- ・ 「期首部材数」には期首の各部材の健全度分布を入力する。
- ・ 「劣化部材数」は期末に劣化してきて、当該健全度になった部材数を入力する。
- ・ 「補修実施部材数」には、「劣化部材数」のうち、当期に補修を行った部材数を入力する。

です。

サンプルは「部材分布情報.xls」です。

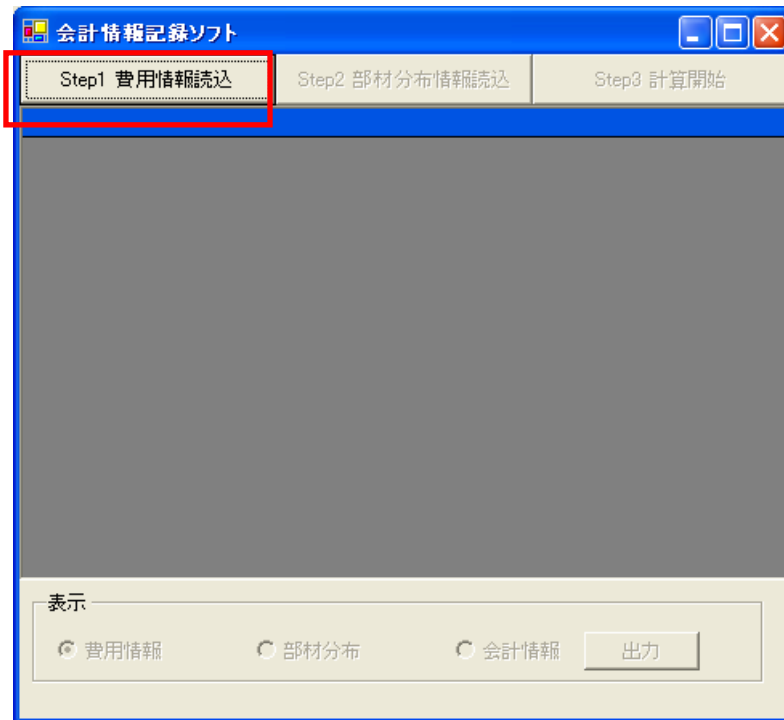


	A	B	C	D	E
	部材名	健全度	期首部材数	劣化部材数	補修実施部材数
1					
2	コンクリート床版A	1	45	0	0
3	コンクリート床版A	2	45	12	10
4	コンクリート床版A	3	40	13	13
5	コンクリート床版A	4	32	15	15
6	コンクリート床版A	5	5	5	5
7	コンクリート床版B	1	9	0	0
8	コンクリート床版B	2	5	5	4
9	コンクリート床版B	3	0	2	1
10	コンクリート床版B	4	1	0	0
11	コンクリート床版B	5	47	12	2
12	鋼桁A	1	8	0	0
13	鋼桁A	2	2	5	5
14	鋼桁A	3	7	2	2
15	鋼桁A	4	2	3	3
16	鋼桁A	5	21	12	12
17	鋼桁B	1	2	0	0
18	鋼桁B	2	5	1	0
19	鋼桁B	3	7	5	0
20	鋼桁B	4	8	2	1
21	鋼桁B	5	9	10	10
22	支承A	1	3	0	0
23	支承A	2	5	4	3
24	支承A	3	7	3	2
25	支承A	4	5	2	1
26	支承B	1	3	0	0
27	支承B	2	1	2	1
28	支承B	3	0	1	1
29	支承B	4	7	5	4
30					

1. 計算機能

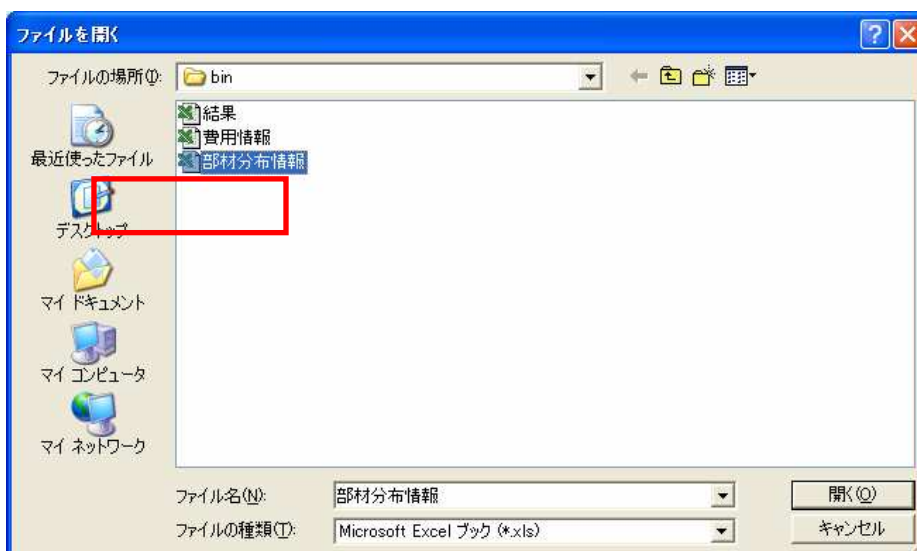
1.1 費用情報の読み込み

「Recording_Account.exe」を起動直後の画面より、「Step1 費用情報読み込み」ボタンをクリックし、エクセルファイルより、部材の費用情報を読み込んでください。



1.2 部材分布情報の読み込み

「Step2 費用情報読み込み」ボタンをクリックし、エクセルファイルより、部材の費用情報を読み込んでください。



1.3 会計情報の算出

「Step3 計算開始」ボタンをクリックすると、期首において引当金情報の有無が確認されます。

部材名	健全度	期首部材数	劣化部材数	補修実施部
▶ コンクリート床	1	45	0	0
コンクリート床	2	45	12	10
コンクリート床	3	40	13	13
コンクリート床	4	32	15	15
コンクリート床	5	5	5	5
コンクリート床	1	9	0	0
コンクリート床	2	5	5	4
コンクリート床	3	0	2	1
コンクリート床	4	1	0	0
コンクリート床	5	47	12	2
鋼桁A	1	8	0	0
鋼桁A	2	2	5	5
鋼桁A	3	7	2	2
鋼桁A	4	2	3	3
鋼桁A	5	21	12	12
鋼桁B	1	2	0	0

引当金入力

? 期首の引当金情報はありますか?

はい(Y) いいえ(N)

ここで「いいえ」をクリックすると期首の引当金が0として会計情報が算出されます。「はい」をクリックすると引当金入力画面に移ります。

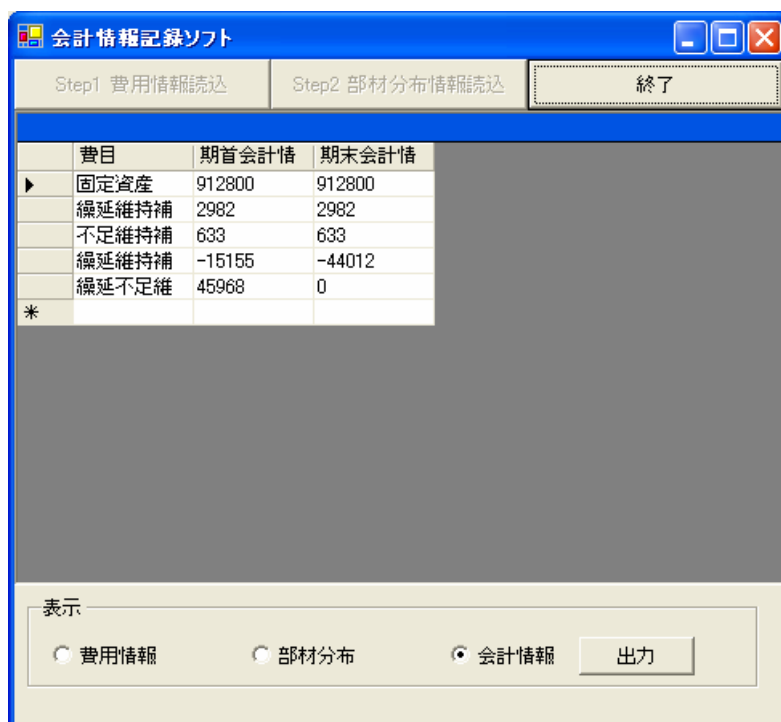
引当金入力

繰延維持補修引当金 -15155

不足維持補修引当金 45968

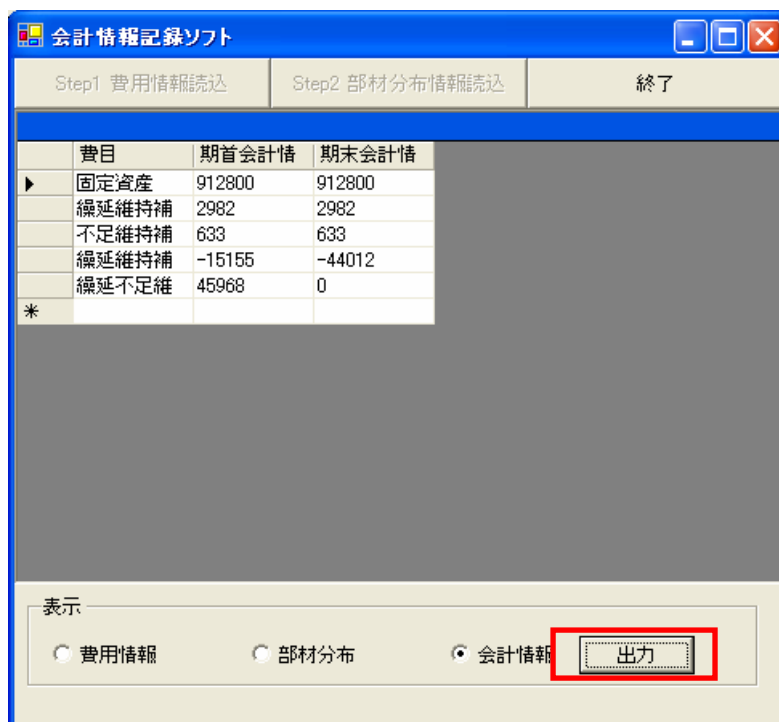
確定 キャンセル

ついで計算が実行され、計算結果がデータグリッド内に表示されます。



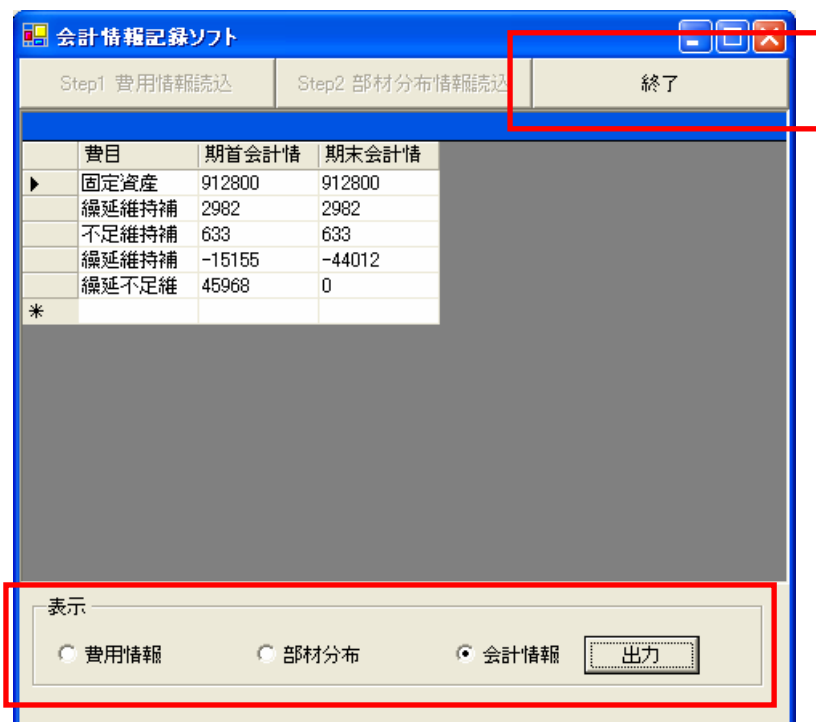
1.4 計算結果の保存

ここまでの計算結果をエクセルファイルに保存することができます。グループボックス内の「保存」をクリックし、適当な名前と場所に保存を行うと、計算結果が保存されます。



1.6 計算条件の表示・終了

計算条件を随時確認することができます。下部にあるグループボックスから必要な情報をクリックしてください。



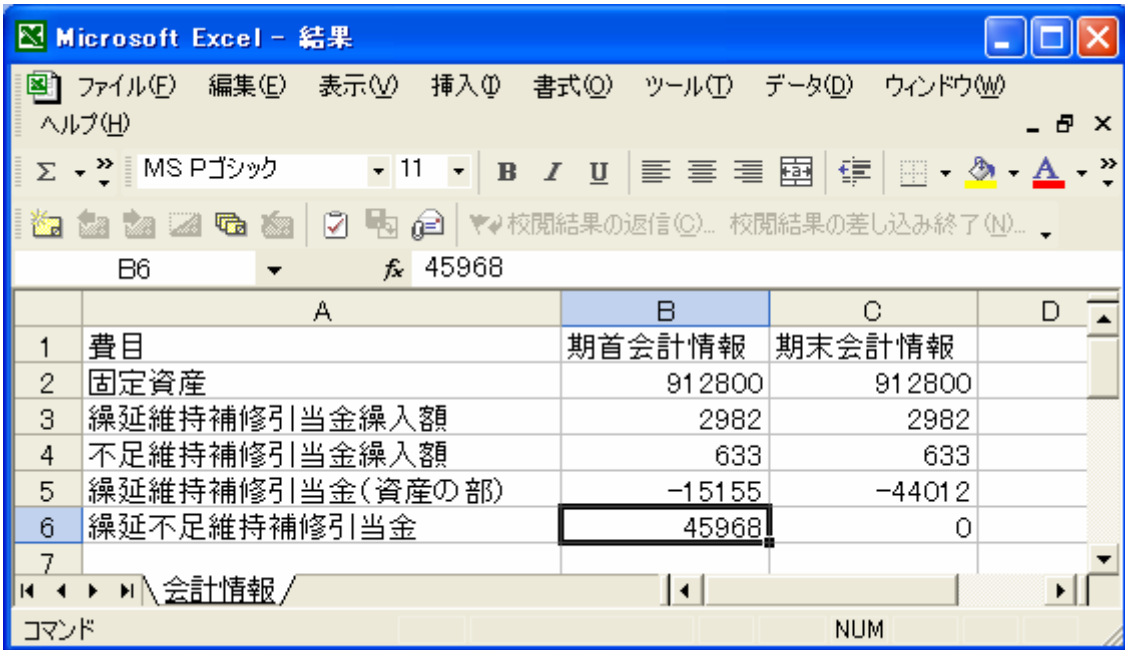
また、終了するためには「終了」ボタンをクリックしてください。

2. 計算結果

保存された計算結果は「会計情報」シートとして保存されます。

「会計情報」シート

期首と期末の会計情報を確認することができます。



Microsoft Excel - 結果

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W)
ヘルプ(H)

Σ MS Pゴシック 11 B I U

校閲結果の返信(C)... 校閲結果の差し込み終了(N)

B6 45968

	A	B	C	D
1	費目	期省会計情報	期末会計情報	
2	固定資産	912800	912800	
3	繰延維持補修引当金繰入額	2982	2982	
4	不足維持補修引当金繰入額	633	633	
5	繰延維持補修引当金(資産の部)	-15155	-44012	
6	繰延不足維持補修引当金	45968	0	
7				

コマンド NUM